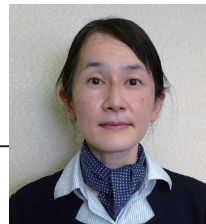


## 安らかさと豊かさを実感できる霞ヶ浦

—— 地域の安全安心と魅力ある水辺空間・賑わい創出



国土交通省 関東地方整備局  
霞ヶ浦河川事務所 所長 山本 陽子



霞ヶ浦流域図

西浦・北浦が常陸利根川・鰐川を経て、利根川と合流する地点(茨城県神栖市太田地先)に昭和38年に建設されました。霞ヶ浦には流域から56本の支川が流入しますが、出口は常陸川水門のある1カ所のみです。常陸川水門は以下の3つの重要な役割を担っています。

### ①利根川からの洪水の逆流防止

利根川の水位が常陸川の水位より高い場合、水門がなかった時代には利根川の水が逆流して霞ヶ浦に流れ込み、周辺の平野部に洪水被害を引き起こしていました。そのため、常陸川水門を閉めることによって、利根川の洪水が霞ヶ浦に逆流するのを防いでいます。一方で、流域に降った雨により霞ヶ浦の水位が利根川の水位よりも高い場合、常陸川水門を開けて利根川に水を流し、霞ヶ浦の水位を低下させています。

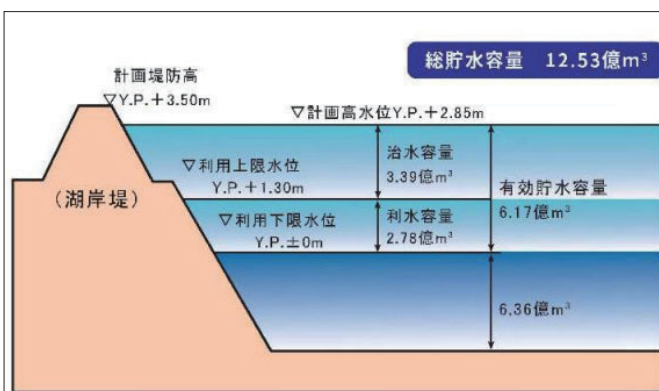
### 1. 霞ヶ浦の紹介

霞ヶ浦河川事務所では、全国で2番目の広さ(湖面積)を有する西浦(いわゆる霞ヶ浦)をはじめ、北浦、常陸利根川(北利根川、外浪逆浦、常陸川)、鰐川、横利根川の管理をしています。本稿ではこれらを総称して「霞ヶ浦」と呼びます。全体の湖面積は220km<sup>2</sup>、流域面積2,157km<sup>2</sup>は茨城県全体の35%に及びます。治水容量3.39億m<sup>3</sup>(八ッ場ダムの治

水容量の5.2倍)、利水容量2.78億m<sup>3</sup>(八ッ場ダムの利水容量(洪水期)の11倍)を有し、地域の安全を守るとともに、豊かな水資源で暮らし、産業、文化を支えています。

### 2. 常陸川水門の紹介

常陸川水門は、



霞ヶ浦容量配分図



## ②利根川河口から遡上する塩水の流入防止

利根川流域に降雨が少なく異常渇水となった昭和33年には、霞ヶ浦下流域において、利根川からの塩水の遡上により農作物への被害、魚類の死滅、上水への被害等が発生しました。そのため平常時は常陸川水門を閉めることにより、利根川から塩分が遡上することを防止しています。水門下流の塩分が約400~12,000mg/Lに達するのに対して、水門上流の塩分は年平均で約150mg/Lとなっています。

## ③霞ヶ浦の水位管理

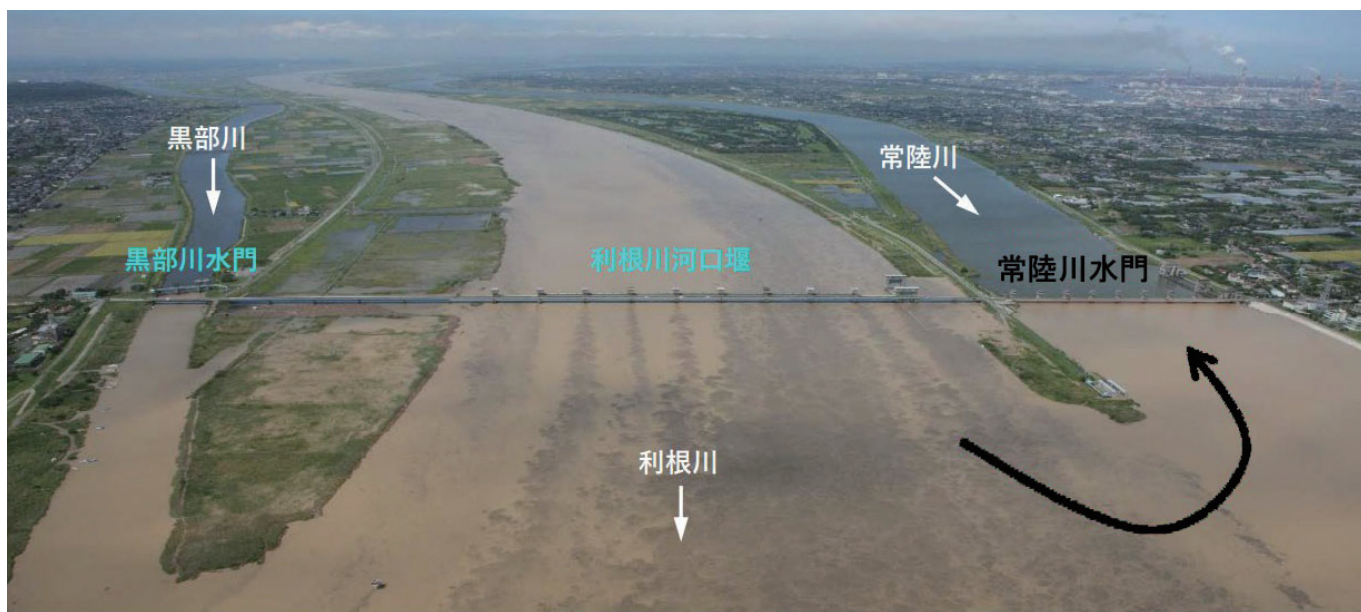
平成8年度からは、農水、工水、上水に利用するため霞ヶ浦開発事業に伴う水位管理を行っています。大規模な降雨時だけではなく、通常の降雨で湖の水位が上がる場合も含め、平均で年間90回(平成8年度~令和4年度)常陸川水門を開門することにより、水位を適正な水準に保っています。

### 3. おわりに

令和5年は6月の台風2号に伴う前線豪雨によって、霞ヶ浦流域においても流域平均239mm(速報値)の大

雨となり、流域の多くの観測所で観測史上最大の24時間雨量を記録しました。その後9月に茨城県北部、千葉県においても大規模な豪雨災害が発生していることから、災害対策の重要性を改めて認識し、堤防未整備区間の解消や波浪対策等の治水事業を進めるとともに、河川巡視、堤防点検、常陸川水門等の河川管理施設の点検・操作や修繕等の維持・管理に取り組みます。

また、霞ヶ浦の水質改善や自然再生、「つくば霞ヶ浦りんりんロード」と連携したかわまちづくり等の環境事業にも取り組んで参ります。



常陸川水門による逆流防止(平成27年9月関東・東北豪雨)